

吹寄せ
No. 1
2002-2003

林のぶえ句集

心排雪
sasano
of
8



Rice

前書き

林のぶえ様

第一回吹寄せ大賞 おめでとうございます。

何かお祝いの品をと考えましたが思いうかばず、
のぶえ様の全投稿句をまとめて冊子にしようと。
挿絵はオジャラさんをお願いいたしました。

記念になれば幸いです。

平成十五年十一月吉日
心太俳諧通信 笹心太

兼題 一 二十五

吹寄せ 三
糊



糊浴衣つつばっている夫坊や
訂正の糊張り斜め台風来

吹寄せ
四

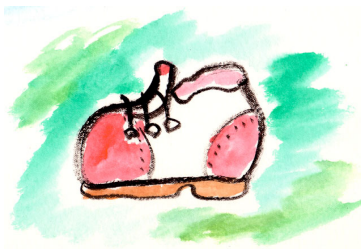
紙



全員の型紙破り捨てたる日
筆構ふ白紙の無限いな光

吹寄せ
五

靴



ポリープの診断靴紐締めて待つ
コンマ五の靴の迷ひや富士の峰

吹寄せ 六

靴下



抽出すや靴下溢れ落つ九月
二三足靴下追加旅カバン

吹寄せ 七

ズボン



丸出しの膝がピカピカ来るズボン
裸電球低くズボンの継ぎに継ぎ

吹寄せ 八

スカート



マネキンのスカートに打つ隠しピン

バレリーナの真似スカートを半円に

吹寄せ 九

シャツ



降参のバンザイで着る丸首シャツ

自転車の風はらむシャツ天高し

吹寄せ 十

駅

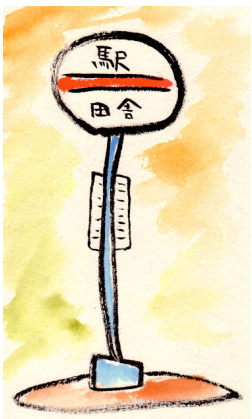


コスモスへ抜けらるる駅完成す

秋灯の影引く男単線駅

吹寄せ 十一

停留所



待ちに待つ視野を溢れてバス止まる
バス停の小さき交番木の実落つ

吹寄せ 十二

公園



公園の陽光と受く花梨の実
みんな花コスモス園のかくれんぼ

吹寄せ 十三

病院



天井までカルテぎつしり入院す
病灯に掲げて見する瓶の尿

吹寄せ 十四

役所



生きている証の軽さ役所出ず
編隊す轟音のへり区役所へ

吹寄せ 十五

図書館



図書館に返へすべき本石路の花
図書館の万人の声静もれり

吹寄せ 十六

美術館



15

このオムレツ最高紅葉の美術館
行列を眺めて帰る美術館

吹寄せ 十七

コンビニ



16

角角にコンビニ三軒雪晴るる
銀行ゆきのコートと眼鏡コンビニへ

吹寄せ 十八

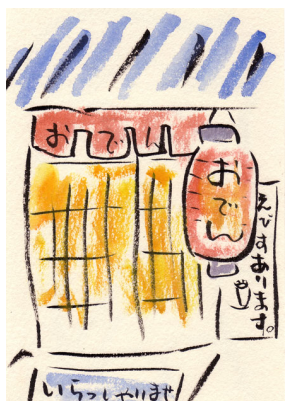
スーパードパート



お向かひのデパートでした忘れ杖
デパートの歳末合戦向き合へり

吹寄せ 十九

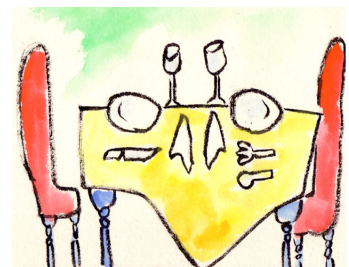
酒場



極寒の酒場通に迷ひ入る
白髪の無言つずけるバーの隅

吹寄せ 二十

レストラン



日に射られ準備たけなわレストラン
レストラン四代揃ふ初笑ひ

吹寄せ 二十一

劇場



掛け声の間合すつきり見得決まる
腕時計見て映画館素通りす

吹寄せ 二十二

鏡



自画像描く鏡の奥を雲いそぐ
コンパクトつくづく見つむ風邪心地

吹寄せ 二十三

眼鏡



百円眼鏡大きな顔で侍りけり
春立つや垂れ瞼切る伊達眼鏡

吹寄せ 二十四

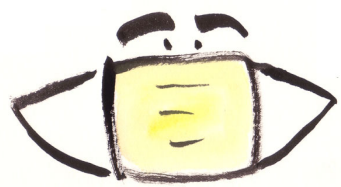
ピアス



双子星あの娘のピアスにいいかもね
ピアスなど如何と勧められました

吹寄せ 二十五

マスク

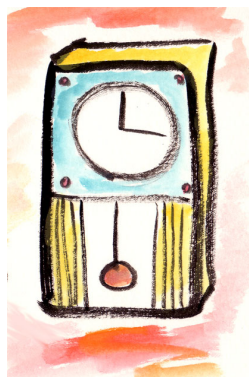


看護婦さん全員マスクの御挨拶
度々の外出マスク忍ばせて

兼題 二十六・五十

吹寄せ 二十六

時計



亡母の時計壊れて私のペンダント
良き旅を逃せり短針読み違へ

吹寄せ 二十七

鞆



赤いリツク自分が使う破目になる
素敵な鞆下げしばかりに躓けり

吹寄せ 二十八

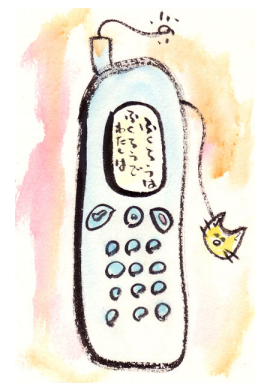
カメラ



極限の冬滝撮らむ足構え
雪しずく帽濡らしつぐカメラアイ

吹寄せ 二十九

携帯電話

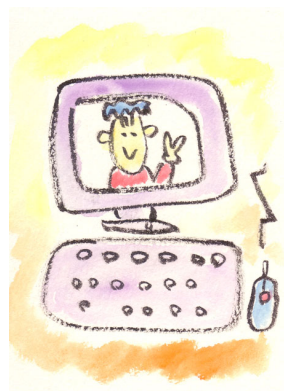


携帯でお玉じゃくしの話など

遭難告ぐ携帯電話春の夢

吹寄せ 三十

パソコン

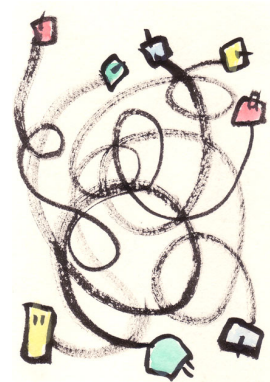


パソコンやマウスの逃げてしまひけり

パソコンは苦手桜の遅きかな

吹寄せ 三十一

ケーブル



ケーブルや川輝ける花並木
海底のケーブル設置奮闘記

吹寄せ 三十二

島

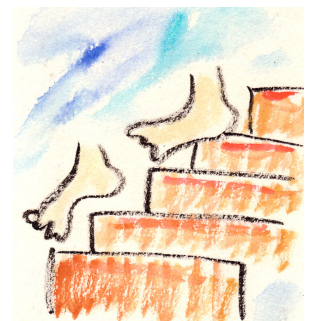


列島の桜前線東京へ

日本の島それぞれに四季豊か

吹寄せ 三十三

階段



外階段の余慶春月夕桜

吹寄せ 三十四

坂



忘れ物いざ出発と登りつめ

登山とはつまりは坂の連続か

吹寄せ 三十五

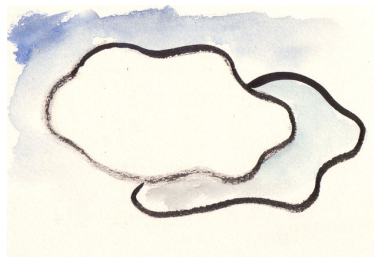
橋



座禪草あの一橋を渡りたし
丸木橋夢の中にて渡りけり

吹寄せ 三十六

雲



青き踏む浮雲まねくところまで
雲仰ぐ振返へる余花もう見えぬ

吹寄せ 三十七

雨



アカシアの花や舗道を濡れてゆく
雨の音聞きつ単衣を縫いし頃

吹寄せ 三十八

箸



下手な一句を指で伸ばした箸袋
蟻たちまち手元狂ひしころげ箸

吹寄せ 三十九

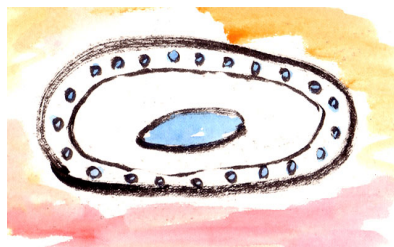
椀



一椀を以つて足る僧馱の前
八十路一椀伏せて足る

吹寄せ 四十

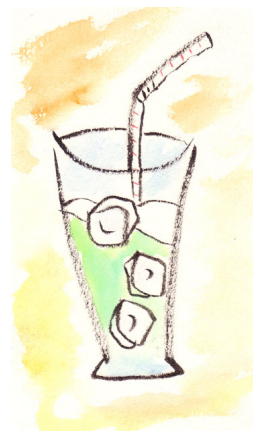
皿



地に並ぶとつ国の皿夏の月
スペインの娘やパソコンの壁の皿

吹寄せ 四十一

コップ

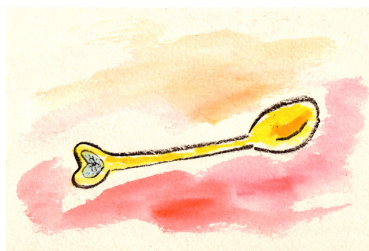


遠き日のグラスに開く水中花

コップに光る水一杯やいざ出発

吹寄せ 四十二

匙

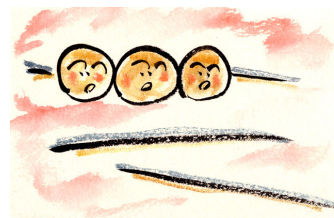


匙持ちて離さない子やくわんくわんの子

匙加減とふその難しさ

吹寄せ 四十三

串



電柱の富士の串刺し夕焼くる

したたれりサイコロビーフのフオークより

吹寄せ 四十四

鍋



悲喜につけ手を取り合ひし仲や鍋

鍋と七十路「ナナソジ」別れて三年「ミトセ」

吹寄せ 四十五

台所

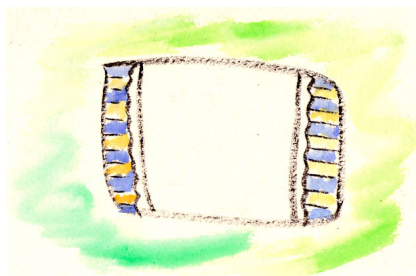


捨て来しが何故かうれしき台所

キツチンとや土間すの子経し台所

吹寄せ 四十六

枕



走り根を枕に一寸宇宙まで

覚む自分しばらく探す肘枕

吹寄せ 四十七

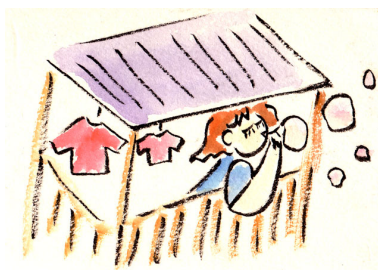
布団



100パーセントの自分忘れにゆく布団
板を敷く骨折布団今最適

吹寄せ 四十八

ベランダ



ベランダは満員シャツと薔薇と百合
ベランダの串富士建設ビルの陰

吹寄せ 四十九

庭



ベランダの坪庭も宙秋ざくら
鬼百合は茎に拳を連ねけり

吹寄せ 五十

花火



花火消ゆ前のしたたりえもいえず
将棋の縁台出して花火を見し昔

吹寄せ 入選句

吹寄せ 三
糊

訂正の糊張り斜め台風来

吹寄せ 四
紙

全員の型紙破り捨てたる日

吹寄せ 八
スカート

マネキンのスカートに打つ隠しピン

吹寄せ 九
シャツ

降参のバンザイで着る丸首シャツ

吹寄せ 十 駅

秋灯の影引く男単線駅

吹寄せ 十一 停留所

待ちに待つ視野を溢れてバス止まる

吹寄せ 十二 公園

みんな花コスモス園のかくれんぼ

吹寄せ 十四 役所

生きている証の軽さ役所出ず

吹寄せ 十五 図書館

図書館に返へすべき本石路の花

吹寄せ 十六 美術館

このオムレツ最高紅葉の美術館

吹寄せ 十七 コンビニ

角角にコンビニ三軒雪晴るる

吹寄せ 十八 スーパー・デパート

お向かひのデパートでした忘れ杖

吹寄せ 二十一 劇場

掛け声の間合すつきり見得決まる

吹寄せ 二十二 鏡

自画像描く鏡の奥を雲いそぐ

吹寄せ 二十三 眼鏡

百円眼鏡大きな顔で侍りけり

吹寄せ 二十四 ピアス

双子星あの娘のピアスにいいかもね

吹寄せ 二十九 携帯電話

携帯でお玉じゃくしの話など

吹寄せ 三十 パソコン

パソコンやマウスの逃げてしまひけり

吹寄せ 三十三 階段

外階段の余慶春月夕桜

吹寄せ 三十五 橋

座禅草あの八橋を渡りたし

吹寄せ 三十六 雲

青き踏む浮雲まねくところまで

吹寄せ 四十 皿

地に並ぶとつ国の皿夏の月

吹寄せ 四十一 コップ

遠き日のグラスに開く水中花

吹寄せ 四十二 匙

匙持ちて離さない子やくわんくわんの子

吹寄せ 四十五 台所

捨て来しは何故かうれしき台所

吹寄せ 四十六 枕

走り根を枕に一寸宇宙まで

吹寄せ 四十八 ベランダ

ベランダは満員シャツと薔薇と百合



おじやらねっと